

メルマガ 「とちぎ通信」 2021年1月号(第30号)

新年明けましておめでとうございます。
今年が皆さんにとって良い年でありますように！

■3か国の駐日大使が知事を表敬訪問

昨年11月から年末にかけて、3人の駐日大使を相次いでお迎えしました。まず11月24日には、県内の民間国際交流団体である「とちぎ日独協会」の設立30周年を祝うため、ドイツ大使館からイナ・レーペル大使が来県しました。

また、11月26日には、ベトナム大使館のヴァー・ホン・ナム大使が、県内企業視察のため来県しました。知事への表敬訪問後に訪れた医療機器メーカーの(株)ナカニシでは、ベトナム人技能実習生と意見交換しました。

このほか、12月17日にはフィジー大使館のイシケリ・マタイトガ大使も来県し、知事への表敬訪問を行いました。

11月の知事選において「とちぎ型大使館外交」を公約に掲げて再選した福田知事は、お迎えした各大使に対して、県庁舎展望ロビーの案内、本県観光動画の紹介、そして、県産日本酒やいちごを提供するなど、様々なツールを用いて本県の魅力をPRしました。



▲福田知事から展望ロビーの案内を受けるレーペル大使

■「とちぎ食品輸出オンライン商談会」を開催

昨年10月、東アジア・アセアンへの販路開拓のため、県内の食品事業者向けに「とちぎ食品輸出オンライン商談会」を開催し、輸出に意欲的な19社が参加しました。当初の計画では、海外から食品バイヤーを招へいし、栃木県内で商談会を実施する予定でしたが、コロナ禍により日本への渡航が困難となったため、栃木県と香港、ベトナム、シンガポール、マレーシア及びタイをインターネットで結んだオンライン商談会となりました。

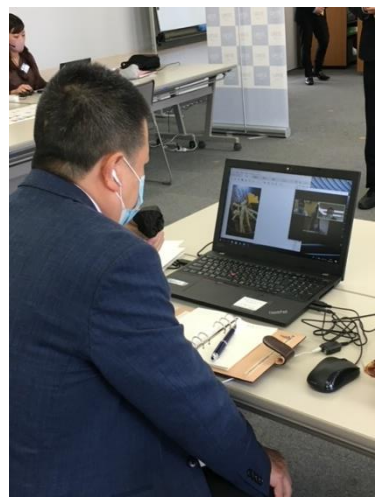
参加した企業は慣れないオンライン商談に戸惑いながらも、各国のバイヤーに対して、それぞれが工夫を凝らしたPRを行うなど、熱気に満ちたものとなりました。オンラインとなったことでより多くの国のバイヤーと商談できるようになり、商談会に初挑戦する企業も複数あるなどの効果も見受けられたことから、今後、対面方式とオンライン方式のメリットを組み合わせながら、より効果的に海外への販路開拓に取り組む県内企業の支援に取り組んでまいります。



▲「とちぎ食品輸出オンライン商談会」の様子



▲(株)ナカニシを視察するヴァー大使



▲パソコンを通じて熱心にアピール

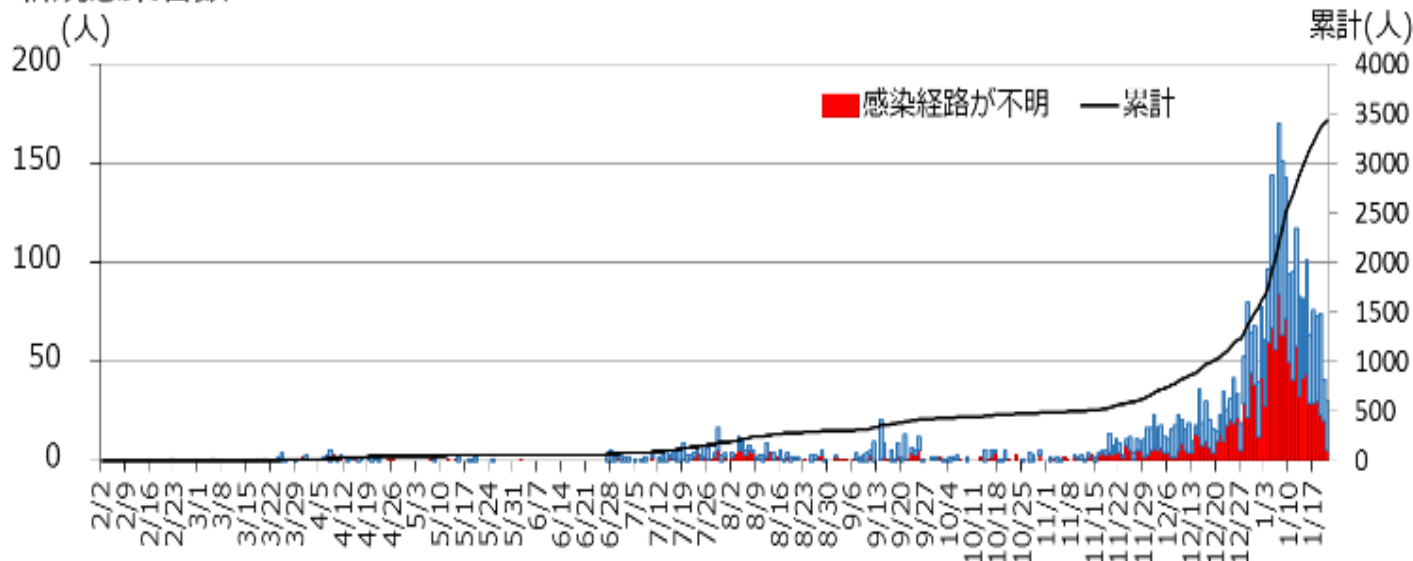
■新型コロナウイルスの県内感染状況

県内の新型コロナの感染者が急増しています。昨年2月に初めて県内の感染者が判明してから、累計感染者が千人に達するまでの期間は約10ヶ月間であったのに対し、その後、わずか19日後の1月7日には2千人に達し、1月15日には3千人、1月24日現在では、3,556人に達しています。また、人口10万人当たりの1週間(12/31-1/5)の新規感染者数は29.24人で、東京都、神奈川県に次いで全国第3位となりました。

このようなことから、1月13日、国から栃木県全域を対象に緊急事態宣言(1/14-2/7)が発令され、外出自粛の要請がなされています。

今の状況がいかに危機的か、県民ひとりひとりが重く受け止め、それぞれができる限りの感染予防をしていくことが何よりも大切だと思います。各県人会の皆さまにおかれましても、くれぐれもご自愛ください。

新規感染者数



観光情報

【足利織姫神社】 (観光交流課・岡安主事より)

新年あけましておめでとうございます。今年はコロナ禍により静かな幕開けになりましたが、早い時期のコロナ収束を祈願して、体調に気をつけながら生活しましょう。

さて、今回は足利織姫神社を紹介します。朱塗りの社殿が鮮やかな織姫神社は、産業振興の神、縁結びの神として祀られています。夜間には社殿がライトアップされ、境内からは関東平野を一望できます。平成26年には恋人の聖地・日本夜景遺産にも選定され、デートスポットとしても人気のあるスポットです！



世界で活躍する「とちぎびと」のご紹介

世界で活躍する「とちぎびと」の皆さまを紹介させていただくこのコーナー。今回は、英国ロンドンに所在する「英国栃木県人会」の佐野圭作会長に、同県人会の活動について執筆いただきました。佐野様、ありがとうございました。英国栃木県人会の皆さまのますますのご活躍を期待しています。※皆さまからの執筆ご希望の連絡をお待ちしています！

英国栃木県人会

会長 佐野 圭作

英国栃木県人会は、1980年代の後半に当時の足利銀行がロンドンに支店進出された時に遡ります。初代の里見支店長は非常に郷土愛の深い熱心なお方で、ぜひ英国に栃木県人会を発足したいと言われ、1988年に永住者を代表とする形で不肖佐野が取りまとめ役になり、事務局は足利銀行ロンドン支店(CityのVictoria street)に置かせていただきました。会員は、行員が3、4人、レストランオーナー(斎藤さん、近藤さん等)が家族を入れて4、5人、英国人と結婚された永住者女性が3、4人程で、12人強の会員数で発足しました。

英国は明治時代からの日本人移民受け入れが無かったですが、1902年の日英同盟にも見える様に、日英友好関係は大変深い繋がりを持っております。不幸にして起こった第二次大戦の期間を除き、現在での日英友好度合いは皇室のご親交は元より、日英経済協力、文化交流、第二次大戦後の英国人捕虜問題に係る日英和解努力と相まって、正に“問題が無いのが問題”とまで言わしめる良き友好関係であります。

良好な日英関係を象徴するものとして、現在、当地では英国全土へ日本の桜を植樹するプロジェクトが推進中であります。160箇所の公園と400校に及ぶ学校へ総計で6500本の桜を日英交流推進のために植樹しております。下記の写真はその一部であります。



9 35 220

ここで、近年での栃木県と英国との重要な交流関係として、次の2つを紹介させていただきます。

1) 益子町の陶芸家

故濱田庄司との親交で知られる Bernard Howell

Leach が 1922 年に英国西南の地 St Ives 市に登り窯を作ってから、益子焼は英国で大変賞賛されており、今でも多くの英国人陶芸家が後を継いでおります。2012年には、在英日本大使館にて益子町大塚朋之町長と St Ives 市長が、往時の林景一大使(現最高裁判事)の立ち会いのもとで両市の友好都市提携をされたのは記憶に残るものです。

2) 佐野市の国際交流

もう一つは佐野市の地方再生活性化を発信する国際交流です。英国お家芸の GB クリケットを通じた国際交流を率先して導入し、日本でのクリケット発祥の地に佐野市がなった



▲さのまると著者

のは、全国でも良く知られております。2014年には岡部市長以下がご訪英いただき、クリケット発祥の地ローズクリケットを訪問し、英国で日系社会最大のイベントである「ジャパン祭り」での佐野市のアピールを、市のゆるキャラ“さのまる”君に託されたのは大変大きく評価されました。

さて、我々栃木県出身の永住者の数も増えてはいますが、現在のところ英国ではコロナ禍が尋常ではない状況です。既に9万1千人以上の死者数を出しており、10万人を越すのは秒読みです。かかる状況下では、一人一人が自宅に避難して外出を最大限避ける最中です。近々には Video でのバーチャル会議を検討していますが、まずは自己防衛に全員が工夫しております。

現在のメンバーメールの数は50名強です(ここには、県人会会員・ゴルフ大会に栃木県から出場した方等を含みます)。

在英状況等も確認してリストを最新増強できればと思っています。今後、コロナが収まることを願いつつ県人会を通じて県人の交流を高めていく予定しております。

連絡先: c/o JEIB Ltd First Floor 3 London Wall Buildings London EC3M 5PD, UK
e-mail: sandy.sano@jeib.co.uk